

YOSHITAKE SHIMA

島義勇伝

明治2年(1869)。
それまで蝦夷地と
呼ばれていた北の大地も「北海道」と
名前を改め開拓使が設置される。
当時まだ広大な原野であった「札幌」。
この地に多くの人々の
暮らしが根つき、豊かに栄えていくと
この当時、
誰が想像しただろうか……

北海道・札幌の
壮大な開拓物語が
いま、始まる——



北海道・札幌の礎を築いた
開拓判官「島義勇」の物語

好評
発売中!!

各書店にて
お求めください。

北海道庁

タイプアップ作品!!

◎北海道学校図書館協会

推薦図書!!

佐賀県庁

推奨図書!!

◎佐賀市役所

◎佐賀市教育委員会

推薦図書!!

著/エアーダイブ
「島義勇伝」製作委員会

A5判・160ページ
定価:本体900円+税
ISBN:978-4-907436-02-5 C0921

エアーダイブから発信する本

Dybooks
ダイブックス



www.dybooks.jp

ダイブックス 検索



有限会社 エアーダイブ
〒064-0808 札幌市中央区南8条西4丁目
422番地5 グランドパークビル
TEL:011-533-3216 FAX:011-533-3215

明治2年(1869)。
 それまで「蝦夷地」と呼ばれていた北の大地も「北海道」と名前を改める。
 当時、まだ原野であった札幌を「世界一の都にしよう」と決心し、
 開拓の礎を築きあげたのが、佐賀藩出身の開拓判官・島義勇でありました。
 その島判官の生涯を漫画で描くことで、子どもたちに札幌のまちづくりの基礎が
 どのように培われてきたのかという歴史を、分かりやすく魅力的に伝えます。
 郷土教育、観光振興、文化振興といった観点から非常に意義のある作品です。



開拓神社

北海道開拓に功績のある人物を祭神として、昭和13年(1938)に建立された境内社。祭神37柱には、島義勇、鍋島直正、松浦武四郎、岡本監輔、東久世通禧、岩村通俊らが祀られている。



島義勇銅像

昭和49年(1974)、北海道神宮の神門前に建立された島義勇の像。開拓三神の御霊代を背負い、官地を定めようと大地を踏みしめ、力強く前方を見守っている。

北海道の開拓は、多くの先人の苦勞のもとに行われました。そのなかでも島義勇判官は、明治2年の厳冬のなか、開拓三神を奉じて札幌の地に入り、神霊の鎮まる宮地を選び、さらにはその地を起点に札幌開拓の大計を案じました。今日の札幌の街区は、島判官の大計に基づき整備されました。このことから私たちは、島判官のことを敬意をこめて「開拓の父」と呼んでいます。

私たちは今、北海道の自然の豊かさのなかで暮らしています。豊かな恵みをあまねく享受できるのは、ひとえに開拓の先人のお陰といえます。感謝の気持ちをおこめて北海道開拓の歴史を後世に語り伝え、その顕彰を行つていかなければならないと思います。

こうしたことから、島判官の功績や御徳の顕彰事業を活動の中心に置き、そのなかで郷土を愛する心を次世代に醸成し、社会の文化発展に寄与してまいりたいと考えております。

開拓判官

島義勇顕彰会

北海道

「島義勇」を訪ねて

島義勇

(1822~1874)◎佐賀藩出身

明治2年(1869)開拓判官として北海道に入り、札幌を中心とした都市(札幌本府)の建設に尽力する。厳しい冬の時期に、原野だった札幌の開拓に着手した。たった3カ月という短い任期だったにもかかわらず、島の壮大な都市計画の構想は、現在の札幌に確実に継承されている。

北海道神宮

島は札幌を一望したコタンベツに正式な社殿を設けようと計画し、最初に完成した官邸に、開拓三神をお祀りした。島が去った後は、現在の北5条東1丁目に仮社殿が設けられ、御霊代をお遷した。明治4年(1871)5月14日に大政官布告によって札幌神社と命名され、9月14日、円山の地に新社殿が造営される。昭和39年(1964)、明治天皇を御増祀して北海道神宮と改称された。